

## 令和2年度 京都府立工業高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)計画段階

学校経営方針(中期経営目標)	元年度の成果と課題	学校経営の重点(短期経営目標)
<p><b>1 本校「校訓」と「教育目標」を根幹とし、高度技術化社会・国際化時代に対応した工業教育を推進し、国家及び社会の有為な形成者としての人間を育成する。</b></p> <p>(1) 学習指導の充実による学力の向上と進路を切り拓く指導を推進する。</p> <p>(2) 自他の生命や人権を尊重し、健康で安全な生活を営む態度を育成するなど豊かな心を育む指導を推進する。</p> <p>(3) 国際化、高度情報化、技術革新に対応した教育など社会の変化に対応する指導を推進する。</p> <p><b>2 小中学校及び大学、保護者、地域社会及び関係機関との連携を強化し特色ある教育活動を展開することにより開かれた学校づくりを推進する。</b></p> <p>(1) 資格・技術・技能・コミュニケーション能力等を備えた人材を育成する。</p> <p>(2) 高度な研究開発を行うための確かな基礎学力を備えた人材を育成する。</p> <p>(3) 希望進路が実現できる、魅力ある選ばれる工業高校への改善を常に行うとともに、成果については積極的に情報を発信する。</p>	<p><b>1 成果</b></p> <p>(1) 授業づくりや新指導要領に向けた研修を重ね、ブラッシュアップタイム実施と併せ、学力向上、資格取得促進・検定合格に繋がった。その結果、教育長表彰生徒数は142名(約80%)と上々の成果を得た。</p> <p>(2) 就職について、求人1250件超、一次内定率97%で11月には内定率100%に達した。進学については、早期に決まる推薦AO利用が増える傾向で、国公立大学は7名が合格した。援護制度の広報や活ユーザーへの説明、手続きを適切に行い、家庭の経済状況を支援することにより、進路保障に努めた。</p> <p>(3) 登下校時の服装・安全管理、完全下校時刻の設定など生徒心得の大幅見直しを行い、人権意識・規範意識の高揚に努めることができた。</p> <p>(4) 今年度、京都府サポートセンターとの連携を進めるなど、相談・支援体制をよりいっそう充実させることができた。</p> <p>(5) 「ものづくり」への真摯な取組が、ロボット大会・エコデンレースでの成果や地域連携・校種間連携による各種事業の成功に繋がった。また、本校の特色を活かしたボランティアを行い地域の好評を得た。</p> <p>(6) プログラミング教育を推進させたい多くの近隣小・中学校との交流を行った。地域行事にも参加し、工業高校の好感度を高めるとともに地元からの賛辞も得た。</p> <p>(7) 一昨年度は一部定員割れだったが、昨年度は生徒募集の充実に努め、全教職員の協力を得て学科の魅力を広く伝え、志願倍率を向上させた。(前期2.16倍, 中期1.12倍)</p> <p><b>2 課題</b></p> <p>(1) 「わかる授業」・「実力がつく授業」のため、さらなる授業改善が必要である。あわせて、ブラッシュアップタイムの有効活用を図る必要がある。</p> <p>(2) 就職は、求人件数は1250件を超え(昨年から150件増)、ここ10年間にわたり好調を継続している。一方、進学実績についてはやや低迷気味で、今後に向け一定の見直しを図る必要がある。</p> <p>(3) 新型肺炎の感染拡大防止、交通安全教育、いじめの防止・解消など、いのちを守る教育については、さらなる充実と徹底が求められる。</p> <p>(4) 令和元年度は定員を上回る志願者を得ることができた。引き続き、学校の魅力をしっかり中学生・保護者に発信し、地域活性化の視点を含め、一層の生徒募集に向けた具体策を講じたい。</p>	<p><b>1 学力向上</b></p> <p>(1) 技術・技能の基盤となる基礎学力を向上させる。</p> <p>(2) 「わかる授業」、「実力がつく授業」を行う。</p> <p>(3) 資格・検定試験等の講習会等を行い合格者数及び合格率を向上させる。</p> <p>(4) コンテストや模擬試験等に挑戦させ、課題や目標を明確にさせる。</p> <p>(5) 文化的な取組の充実を図り生徒の感性を磨く。</p> <p><b>2 進路保障</b></p> <p>(1) コミュニケーション能力や社会性を向上させる。</p> <p>(2) 地域や企業等と連携しキャリア教育を充実させる。</p> <p>(3) 求人開拓につとめ就職希望者全員を内定させる。</p> <p>(4) 学力の充実を図り志望校へ合格させる。</p> <p>(5) 10年先を見据えた進路指導方針の確立に努める。</p> <p><b>3 安心・安全の学校づくり</b></p> <p>(1) 感染拡大防止に最大限に取り組み、生徒・教職員の健康を守り抜く。</p> <p>(2) 登下校の安全を確保するなど、いのちを守る教育の充実・徹底を図る。</p> <p>(3) マナーや規範意識を高め、いじめ等の問題行動を防止する。</p> <p>(4) 人権を尊重し、安心・安全な学校生活を保障する。</p> <p>(5) 課外活動を充実し、心身ともに健全な生徒の育成を図る。</p> <p><b>4 特色ある教育及び広報活動の推進</b></p> <p>(1) 各学科の教育内容の充実に努める。</p> <p>(2) 「おもしろまじめ」な学校生活を送れるよう支援する。</p> <p>(3) 目的意識を持った生徒の募集につとめる。</p> <p>(4) Webページや各種広報紙等を充実させる。</p> <p>(5) ものづくりをとおして社会貢献する。</p>

評価領域	重点目標(取組の重点課題)	具体的方策	評価	成果と課題
学力向上	技能・技術の基盤となる基礎学力の向上	普通科目の開講講座数を増やし、各生徒の学力にマッチした授業を展開し、基礎学力を向上させる。 苦手科目を抱える生徒の学力向上のため、放課後の時間を積極的に活用する。		
	わかる授業 実力がつく授業	生徒による授業評価(授業アンケート)と公開授業週間を2回以上実施して、授業の充実・改善を図る活動に取り組む。 ICT設備を活用した授業をいっそう推進する。		
	資格・検定	資格・検定を取得する意義を生徒に伝え、チャレンジする生徒が学習しやすい環境(講習等)を整える。 普通科系の資格・検定においては、放課後の講習を充実させ、合格する力を身につけさせる。 工業科系の資格・検定においては、授業の中でも内容を取り扱うことで、合格する力を身につけさせる。		
	目標への挑戦	積極的かつ継続的に模試の受験をすすめ、個々の学習課題を客観的に捉えさせ、その改善に取り組ませていく。		
	文化的取組の充実	茶道教室を実施し、日本の歴史や伝統文化等につまわる教養を学ばせる。 能・狂言などの公演を校内で実施し、本物の伝統文化に触れる感動体験をさせる。		
進路保障	コミュニケーション能力や社会性の向上	SHRを活用して1分間スピーチを1年間継続して行う。敬語が使えていない生徒がいる場合は、原則その場で指導する。 教員から積極的に「おはよう」「さようなら」等の挨拶をする。		
	キャリア教育の充実	キャリア・パスポートについて見識を深め、その運用の仕方について検討を図る。		
	求人開拓と全員内定	新型コロナウイルスの影響による不安定な景気動向の中、求人数の確保に邁進し、適切な情報提供を行うことによって就職希望者全員内定をめざす。		
	学力充実による志望校合格	進学希望者全員が第1志望校合格をめざすように指導し、そのための講習等を充実させる。 3年生次の進学コースの授業の中で、推薦入試の過去問題対策を行う。		
	10年先を見据えた進路指導方針の確立	教職員進路研修会を行い、本校のあるべき姿について合意形成を図る。 合意内容に基づき、今後の進路指導充実のための具体策について、各分掌・教科での年度内策定をめざす。		
安心・安全の学校	感染拡大防止の取組と生徒・教職員の健康	新型コロナウイルス対策として、生徒の登校日に検温による体温確認を徹底し感染拡大を未然に防ぐ。 清掃時に机・ドアノブ・階段手摺り等を水拭きし、現在及び今後に向けてのウイルス対策とする。		
	登下校の安全といのちを守る教育の充実	自転車ステッカー配布時やHR掲示、HR指導、部長訓話等で自転車安全利用五則の遵守を徹底する。 安全管理・安全教育を充実させ、実習中・課外活動中の事故やヒヤリハットを未然に防ぐ。		
	マナーや規範意識向上 いじめ防止	制服着こなしキャンペーンを生徒会を中心に全校的に行う。 いじめアンケート以外に生徒観察や情報収集を行い、いじめ対策会議を活用しながら未然防止に努める。		
	人権尊重と安心・安全	新型コロナウイルスによる風評被害や、生命の尊厳について触れ、人権意識を啓発する。		
	課外活動の充実	新1年生に対し、部活動紹介冊子の充実や体験週間を設定して入部を促す。		
特色ある教育と 広報活動の推進	各学科の教育内容充実	課題研究(3年次履修授業)で、ものづくりを通じて課題解決を体験させ、工業人としての力を身に付けさせる。		
	「おもしろまじめ」な学校	生徒にとっての「おもしろいこと(実技、資格検定取得、部活動等)」を「まじめ」に続けられるよう教員がサポートする。		
	目的意識を持った生徒の募集	学校通信(未来ステージ)や学校説明会等を通じて本校の特長を発信し、中学生・保護者に知ってもらおう機会をつくる。		
	Webページ等の充実	Webページの更新を頻繁に行い、広報誌(スクールガイド)をわかりやすく作成し配付する。		
	ものづくりをとおした社会貢献	各種イベントに参加し、生徒が製作した作品の展示・体験や商品販売をする。		
学校関係者評価委員会による評価				
次年度に向けた改善の方向性				